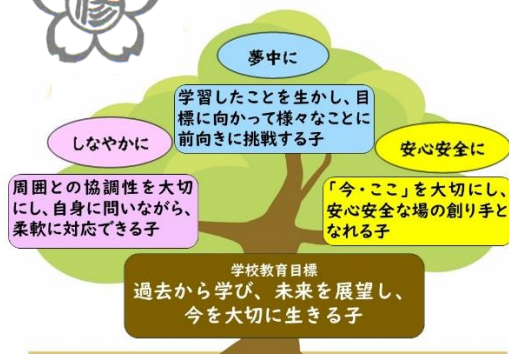




## たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校

令和8年 2月18日  
京都市立修学院小学校  
校長 鎌田 賢二



校長室だより「こころ」NO.43

### 家庭教育講座を終えて～子どもが伸びる「待ち上手」な親の習慣～

「わが子のことがわからず、どう接すればいいのか。」日頃、多くの保護者の皆様とお話する中で、我が子を大切に想うからこそ切実な悩みをお聞きすることが増えています。（もちろん私も同じ思いを今現在もしておりますが…）そこで先日、本校ではベネッセ教育総合研究所の庄子寛之氏をお招きし、「子どもが伸びる待ち上手な親の習慣」というテーマで講演会を開催いたしました。今回はその中から、皆様と共有したい大切なメッセージをお伝えします。

#### ★「当たり前」を問い直す

講演の前半で、私たちは「今の日本の現状」を改めて見つめ直します。AIが驚異的なスピードで進化し、3年後さえ予測困難な時代。（3年前もこのAIの進歩は想定していなかった…）そこで庄子氏が投げかけた問いは、心に深く響きました。「大人が描いている『当たり前』は、本当に今の時代も当たり前なのか？」良かれと思って押し付けている価値観が、知らず知らずのうちに我が子の可能性を狭めていないか。AI時代になぜ勉強が必要なのか。私たちは一度立ち止まり、古いレンズを外して今のわが子を「そのまま見る」勇気が必要なのかもしれません。

#### ★「待つ」という愛情の形

後半は、より具体的な親の習慣についてお話いただきました。「もし、自分の余命が一年だとしたら、今と同じ接し方をしますか？」という問いは、子育ての本質を突きつけます。庄子氏が教えてくださった「待ち上手」な親の習慣。それは、焦って答えを出したり、指示したりするのではなく、まずは「ただ見る」こと。そして、我が子の様子がいつもと違う時やしてほしいことをせずにルールを無視してゲームをしていた時に「どうしたの？」と声をかけること。この「どうしたの？」という言葉は、相手をコントロールするための質問ではありません。我が子が自分自身の感情に気づき、話し始めるのを待つための「マジックワード」です。

#### ★しなやかに、夢中になれる環境を

私たちの役割は、先回りして石を退けることではなく、我が子が安心して失敗し、自ら起き上がれる「しなやかさ」を育むことではないでしょうか。安全・安心な土台があってこそ、子どもたちは目の前のことに「夢中」になれます。

この講演をきっかけに大人が「待ち上手」になること。そして子どもがやっていることを面白がることで、「笑顔」「夢」「ありがとう」が引き出せるようになればと思います。保護者の皆様と教職員が共通の話題をもてて良かったです。さらに地域の方にも寄り添っていただくことで昭和、平成、令和の教育がつながり子どもの成長の土台になればと思います。

まずはどんなことから始めますか？

